

介護の職場で働きませんか

高齢化社会により職員が不足している介護の現場。

3年後には今より32万人、18年後には69万人もの介護職員がさらに必要だと推計されており、本市でも慢性的に介護職員が不足しています。

ここでは、介護に関する職種や介護に関わる人への支援を紹介。介護を必要としている人を、あなたの力で笑顔にしませんか。

■問い合わせ 本庁長寿社会課（☎ 34-2198）

介護の現場にはさまざまな職種の職員が携わっています。主なものは▼利用者の生活上のための相談、援助を行う生活相談員（社会福祉士、社会福祉主事など）▼利用者の健康管理を行う看護職員（看護師、准看護師）▼利用者の介護を行う介護職員（介護福祉士、介護職員初任者研修修了者※資格が不要な場合あり）▼機能訓練計画を作成する機能訓練指導員（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師、あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師）▼利用者の栄養管理を行う栄養士（管理栄養士、栄養士）▼ケアプランを作成する計画作成担当者（主任介護支援専門員、介護支援専門員）——などです。（かっ



デイサービス利用者とレクリエーションを行う介護職員

介護職員とは？

介護保険に関するサービス事業所で働く職員を介護職員といいます。専門的な知識が必要な職種がある一方、資格がいらない場合もあります。また、事業所で働きながら資格を取得する方法もあります。現在市内では、職員不足が原因で施設を休止している事業所もあり、介護職員の確保が課題となっています。

介護職員の種類

医療・介護関係

市の支援制度

対象要件など詳しくは市ホームページをご覧ください。

医療・介護従事者をめざす学生に修学資金を貸し付け

市内の医療・介護施設に勤務することを志し、資格取得のために修学する学生を対象に入学一時金などを貸し付けます。※5年度の申し込みの受け付けは、5年1月ごろを予定

■貸付額 ①入学一時金…70万円以内（職種により100万円以内）②月額貸付金…5万円以内（職種により7万円以内）

■職種 保健師、助産師、看護師、准看護師、歯科衛生士、社会福祉士、介護福祉士

■貸し付け人数 若干名

医療・介護従事者の奨学金返済を支援

卒業後に市内の医療・介護施設に勤務している場合、奨学金返済に対して一定額を補助します。

■補助額 1月当たり1万2千円まで（年14万4千円を上限）※申請月から対象

介護職員の初任者研修受講料を助成

介護職員の人材確保と養成のため、介護職員初任者研修の受講料の一部を助成します。

■助成額 研修受講料の2分の1以内（上限5万円）

◎共通

■問い合わせ 医療…本庁健康増進課（☎ 34-2091）、介護…本庁長寿社会課（☎ 34-2196）



ここには必要な資格

介護職に興味のある人は相談を

県福祉人材センターでは、出張相談を行っています。介護や福祉の仕事に興味がある、資格について知りたいという人を対象に、相談員が相談に応じます。求職登録もできますので、お気軽にご相談ください。

■日時・場所 ▼毎週月、午前9時～午後5時、市パーソナルサポートセンター（メイプル地下、ジョブカフェ奥州内） ▼毎月第1・第3火、午前10時～正午、ハローワーク水沢

※どちらも予約優先

■問い合わせ・予約先 県福祉人材センター 県南担当・稲田（☎ 080-1651-6205）

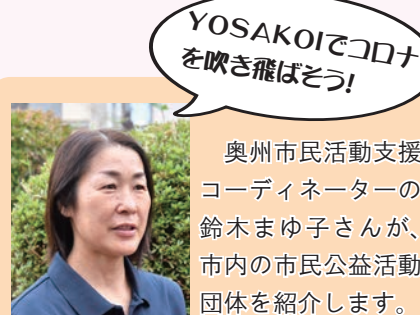
安心して暮らせるまちを目指して

介護を必要としている人が十分なサービスを受けられ、家族の負担を軽減することが、高齢化社会に求められることです。安心して暮らせるまちを築くため、皆さんの力をお貸しください。

思いをカタチに 地域づくりの輪



奥州 YOSAKOI in みずさわ 実行委員会



■問い合わせ 本庁地域づくり推進課 市民活動係（江刺総合支所・☎ 34-1618）

奥州市民活動支援コーディネーターの鈴木まゆ子さんが、市内の市民公益活動団体を紹介します。

「奥州YOSAKOI in みずさわ」には、全国各地からよさこいチームが集まります。毎年、50以上のチームと総勢約2千人の踊り手が集まり、全国トップクラスのチームも出演しています。中でも最多の参加者数となった平成20年の「奥州YOSAKOI in みずさわ」では、64チーム、総勢2200人の踊り手が演舞し、商店街や観客を大いに盛

委員会」として活動を続けてきました。



奥州YOSAKOI in みずさわで演舞を披露する「遊夢舞」

り上げました。このように、より多くのチームに参加してもらうことで地域の活性化につながると感じた同実行委員会会長の小野純さんは、県外のよさこい祭りでもPR活動を積極的にに行っているほか、水沢地域への集客力を高めるため、SNSで情報発信し奥州市の魅力を伝えています。また、当日の運営は、一緒にイベントを盛り上げてくれるボランティアスタッフを100人程度募り、市民や企業などの協力を得ながら実施しています。イベント成功の達成感や充実、喜びを分かちあうとともに、次年度開催への大きな活力にもなっています。こうして長年開催されてきた「奥州YOSAKOI in みずさわ」は、商店街などからの協賛金と地域の理解、そして参加チームやボランティアスタッフに支えられながら秋の一大イベントとして定着しました。

ルス感染症の影響で「奥州YOSAKOI in みずさわ」は中止を余儀なくされていましたが、しかし今年は9月18日に、3年ぶりに開催する方向で準備を進めています。小野会長は「よさこいを通してまちに活気を取り戻し、演舞する人も見る人も元氣になってもらいたい。今後もちのにぎわいや経済効果を生み出し、地域貢献につなげていきたい」と熱く語っていました。多くの人に感動を与え続けている「奥州YOSAKOI in みずさわ」。開催を心待ちにしましょう。



よさこいチームの気迫あふれる演舞で駅通りは熱気に包まれる